様式第４号（第５条関係）

令和２年２月１２日

箕輪町議会議長　中澤　清明　様

箕輪町議会　議会活動活性化委員長　　入杉百合子

箕輪町議会委員派遣結果報告書

箕輪町議会議員の派遣等実施要領第５条の規定に基づき、下記のとおり報告します。

記

研　修　名	令和元年度　議会活動活性化委員会行政視察
研修の期間	令和２年１月３０日（木）
研修の場所	○生坂村議会　　○小布施町議会
成　　果 （具体的に）	議員のなり手不足等に対する検討経過及び課題について、生坂村議会と小布施町議会を視察して参りました。 【視察報告書は、別紙のとおり】
委員会名 派遣議員名	議会活動活性化委員会 入杉百合子、青木俊夫、岡田建二朗、荻原省三、寺平秀行、小出嶋文雄

議会活動活性化委員会行政視察報告書

視察内容：議員のなり手不足等に対する検討経過及び課題について

【生坂村議会】

平成29年 4月　　村議会議員選挙（定員8名）、結果7名で無投票（4期連続無投票）

同 8月　　「議会改革検討委員会」を設置し、議運の委員長を中心として、議員のなり手不足について検討を始める。

同 9月　　「女性の会」との懇談により、模擬議会の検討、報酬、休日議会についても検討する。

同12月　　議員間での検討に行き詰まり、信州大学経法学部に相談し、准教授や学生と一緒になって取り組む。

議員のなり手不足・無投票の原因は報酬、定数と言われてきたが、議会や議員の在り方そのものを問い直すことが必要ということから「議会改革検討委員会」を作り、検討を進めてきた。

信州大学の武者教授のアドバイスを受け、議員と住民が自分のこととして認識し、生坂村議会をみんなの議会として再構築するため「みんなの議会」プロジェクトを立ち上げた。

平成30年11月に模擬議会を開催し、住民10名と信州大学の学生が参加していた。

（参加した10名の内質問者は4名、答弁は村議会議員が行った。）

村が抱えている問題や村の状況を把握した上で、議員とは何か、自己検証の場でもあり、改めて議会の存在意義や議員定数の妥当性、住民との関係を考えた。住民参加の模擬議会で質問をした4名の中の一人の女性が再選挙を経て議員となり女性議員誕生のきっかけとなった。

人口1,800人に満たない村であるが、議員とは何か、議員として手を挙げてもらうためにはどうしたら良いか。議員になれないとか、なりにくい状況が何かあるのではないか。ということで「思いつくことは何でもやってやる」という強い意気込みと行動で方策を示していることに感銘した。

箕輪町議会でも、住民参加の模擬議会の在り方や方法を検討し、住民が議会の場を経験でき議員も自分たちの在り方などを見直すことができる様な取り組みを考える必要があるのではないかと思う。　報酬や定数についても、議会が住民に対して理解を得るアクションを起こしたり、機会を作っていくべきと感じた。

いろいろ検討するも、未だ新しい取り組みを打ち出せていないので、「これまでを検討し総括」していきたい。

【小布施町議会】

人口　10,702人の町

平成31年4月　議会議員選挙（定数14名）　結果無投票

平成27年6月、2期連続無投票選挙という結果、平成31年4月の選挙にあたり議会内に「議員定数等検討特別委員会」を設置して、定数・報酬等を2年間にわたり調査研究を重ねた。

公募により町民10名を加え、議員6名とで「議員のなり手不足検討会」を立ち上げた。住民の関心を高めるため「全町民アンケート」を実施する。12団体との意見交換会、各地区における議会報告会、「まちづくり委員会・部落開放同盟・成人式を迎える新成人」等との意見交換

会を実施した。マスコミの取材にも積極的に応じるなどして住民を巻き込むことに注力しその結果、懇談会などを通じて町政に関わった住民の中から議員になる人が誕生した。

【両議会を視察して】

両議会ともに無投票を繰り返してきた中で、定数確保の状況を維持していることは、議会として本来あるべき姿に町民が確信を共有しているのではないかと感じた。

議会が「議員のなり手不足」という課題を町民全体に理解してもらうためには、町民の中に「議員に出なきゃいけない」「議員を出さなきゃいけない」という意識が浸透して、議会の危機感が住民に伝わる必要があるのではないか。

両議会に共通する点として「まちづくりに関心のある人の背中を押す」ことによって、議会に担い手を作っていることは、箕輪町議会のこれからの取り組みの参考となり検討すべきと思う。

両議会を視察して、「議員のなり手不足」という答えのない課題に、当委員会委員全員で真剣に取り組まなければならないことを改めて思った。